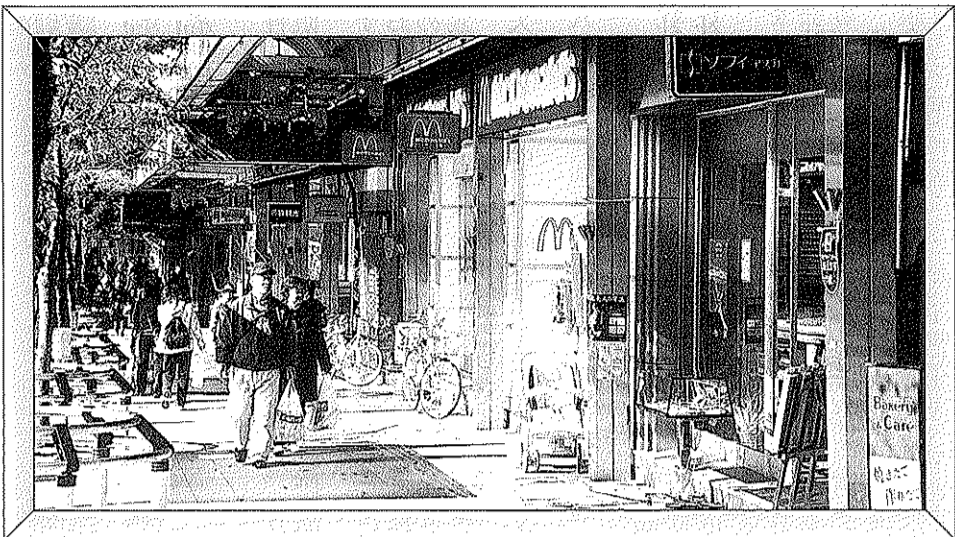


街の活力は 自立と創造から

あのまちこの街

万博契機に青年部を活性化

商業激戦地名古屋の玄関口 オリジナル商品で話題作り



藤が丘中央商店街 振興組合 (名古屋市名東区)

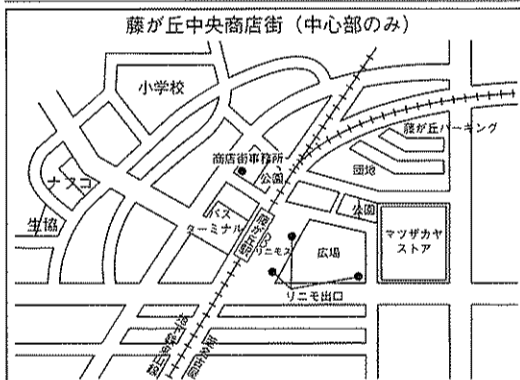


「サンタカ」夜景

名古屋名東区は、中心にユニークな企画を数多く計画・実行。競争激しい商業環境の中、万博終了後も活性化と賑わいを維持する。その戦略性と行動力でも東の端に位置し、愛知万博の主要会場となった長久手町に接する。新しい街のため、比較的若い世帯が多く、また学生の街といった側面もある。

藤が丘駅は、万博会場への足にもなったりニアモーターカー東部丘陵線と地下鉄東山線の乗り換え地点。万博開催中は、駅前広場の滞留場になった。現在も、中部国際空港への直行バスが走り、また東名高速道や東名阪自動車道のインターに近いため、交通の要所である。

藤が丘中央商店街は、万博を契機に青年部を



名 称 藤が丘中央商店街振興組合
設 立 昭和五十九年(前身は昭和五十一年)

所在地 名古屋市名東区藤が丘百四十三番地
電 話 〇五二二七七 三二七一一
理事長 加藤常文氏
組合員数 約百二十人
ホームページ <http://www.fujigaoka.or.jp/>

藤が丘駅は、万博会場への足にもなったりニアモーターカー東部丘陵線と地下鉄東山線の乗り換え地点。万博開催中は、駅前広場の滞留場になった。現在も、中部国際空港への直行バスが走り、また東名高速道や東名阪自動車道のインターに近いため、交通の要所である。

藤が丘中央商店街は、万博を契機に青年部を

「イベントステージ」は、リニア利用者の滞留広場に面したスペースにステージを常設し、音楽イベントを推進する。また、リニア利用者の滞留広場に面したスペースにステージを常設し、音楽イベントを推進する。

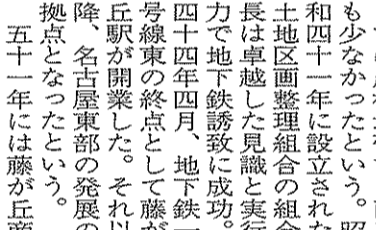
「イベントステージ」は、リニア利用者の滞留広場に面したスペースにステージを常設し、音楽イベントを推進する。



集合住宅の一階に並ぶ店舗

愛知万博や、今や世界的企業であるトヨタの繁栄に象徴されるように、東海地方は元気なことで知られる。にもかかわらず、多くの商店街は全国に例をみない苦境にある。名古屋を中心に、商業の激戦地でもあり、大型商業施設の立地も進む。藤が丘中央商店街は、地下鉄で名古屋駅まで約三十分、商業の中心地・栄まで約二十分。このことは、名古屋市中心部の商業施設と激しく競争することの意味している。車で数分の範囲にも大型店が存在する。

万博終了後すでに数カ月、多くの施設は撤去さ



昨年オープンした韓国居酒屋

訪れる人は極めて少ない。藤が丘が中継地として賑わったのは過去の話。にもかかわらず、商店街は今も元気で、空き店舗はほとんどなく、発生してもすぐ次のテナントが入るといふ。

非加盟店は二割ほどあり、資料によれば、藤が丘地区は昭和三十五年ごろまでは農村地帯で、商店も少なかったという。昭和四十一年に設立された土地区画整理組合の組合長は卓越した見識と実行力で地下鉄誘致に成功。四十四年四月、地下鉄一号線の終点として藤が丘駅が開業した。それ以降、名古屋東部の発展の拠点となったという。五十一年には藤が丘商

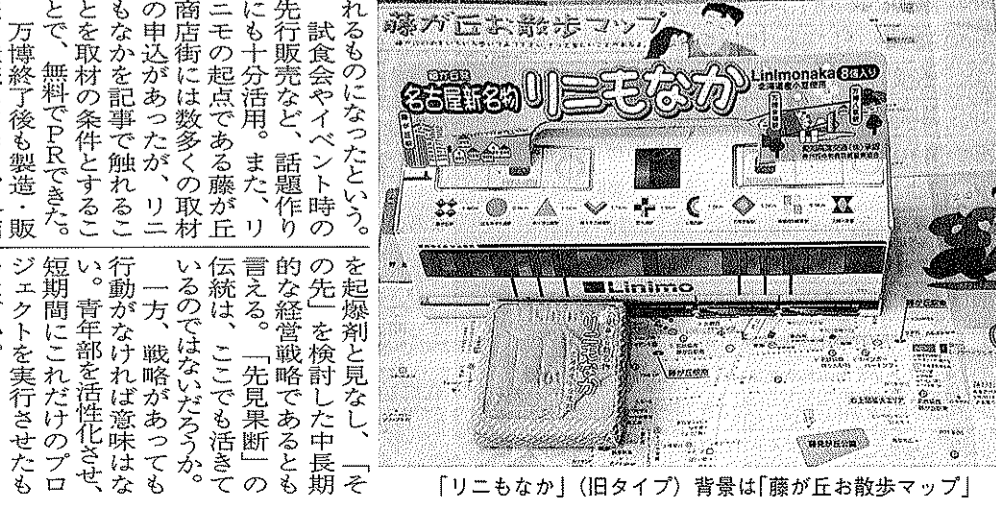
食店が多い。そのためか、観光ガイドブックの類にも商店街がページを割いて取り上げられている。

地下鉄ガード下の商店街マップ

車での来街調査等も行った上、昭和六十一年に完成させた。当初は利用率が低かったが、その後は安定収入と来街者増加に寄与してきたという。また、ハード整備の中でもユニークなものとして平成六年設置の「からくり時計」がある。

なお、五十一年の組合設立により、ミニコミ紙「藤が丘だより」を組合が発刊。現在まで百七十号を越える。商店街のイベントや新規加盟店の紹介だけでなく、総合的なまちの情報誌にもなっている。

イベントとしては、新規開地で伝統がない街であったため、「さくらまつり」「クリスマスイベント」を設定。現在まで継続している。名古屋のポーターとなつてきたため、オフ時にはサイン会なども併せて行う。



「リニモなか」(旧タイプ) 背景は「藤が丘お散歩マップ」

「リニモなか」は、リニア利用者の滞留広場に面したスペースにステージを常設し、音楽イベントを推進する。

「リニモなか」は、リニア利用者の滞留広場に面したスペースにステージを常設し、音楽イベントを推進する。

幹部の役割は、愛知万博は、商店街にあっては降って湧いた話だったのかもしれない。しかしそれによって、万博も継続しうる企画を選定したことが窺える。万博